

# Shibboleth経由のe-リソース利用

国立情報学研究所



ユーザ（学生、教員等）のメリットは・・・

いつでもどこでも、  
Eリソースがベンリに使えるようになる！

具体的には、、

- ＝覚えるID/パスワードは1種類だけ！
- ＝しかもそのIDを入力するのは毎回一度だけ！
- ＝学内外問わず、自宅でも外国でも使える！
- ＝特別なソフトウェア(VPN等)は不要！



ユーザに必要な物はたった2つ

☑ インターネットが使える端末

☑ 1種類の自分固有のID/パスワード

を忘れないこと



舞台裏では、

■技術的基盤 : Shibboleth(シボレス)、

■システム基盤 : 各大学やベンダが構築するIdP・SP、

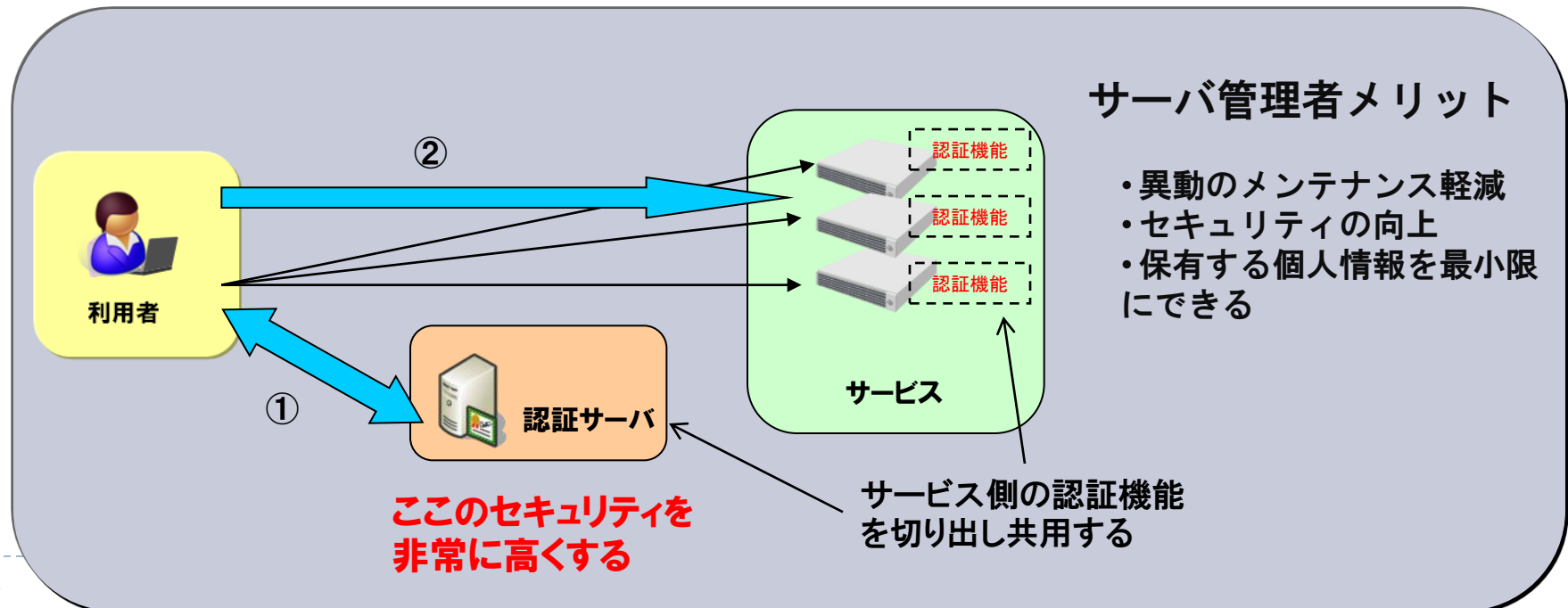
■運用基盤 : 各機関で構成するフェデレーション、

という3つの基盤が機能しています。

本章では  
委細省略

# シングルサインオンとは

- ・ 利用者が1回のログインで複数のシステムを利用できるようにする。同じID/パスワードで利用可能。
- ・ 全システムのID/パスワードを一緒にすることとは違う
  - 例えば、銀行の暗証番号を全部同じにする
  - 一つばれたら、全部盗まれる？
- ・ これまで各サーバにあった認証機能を切り出し、同一の認証機能を用いることで実現可能



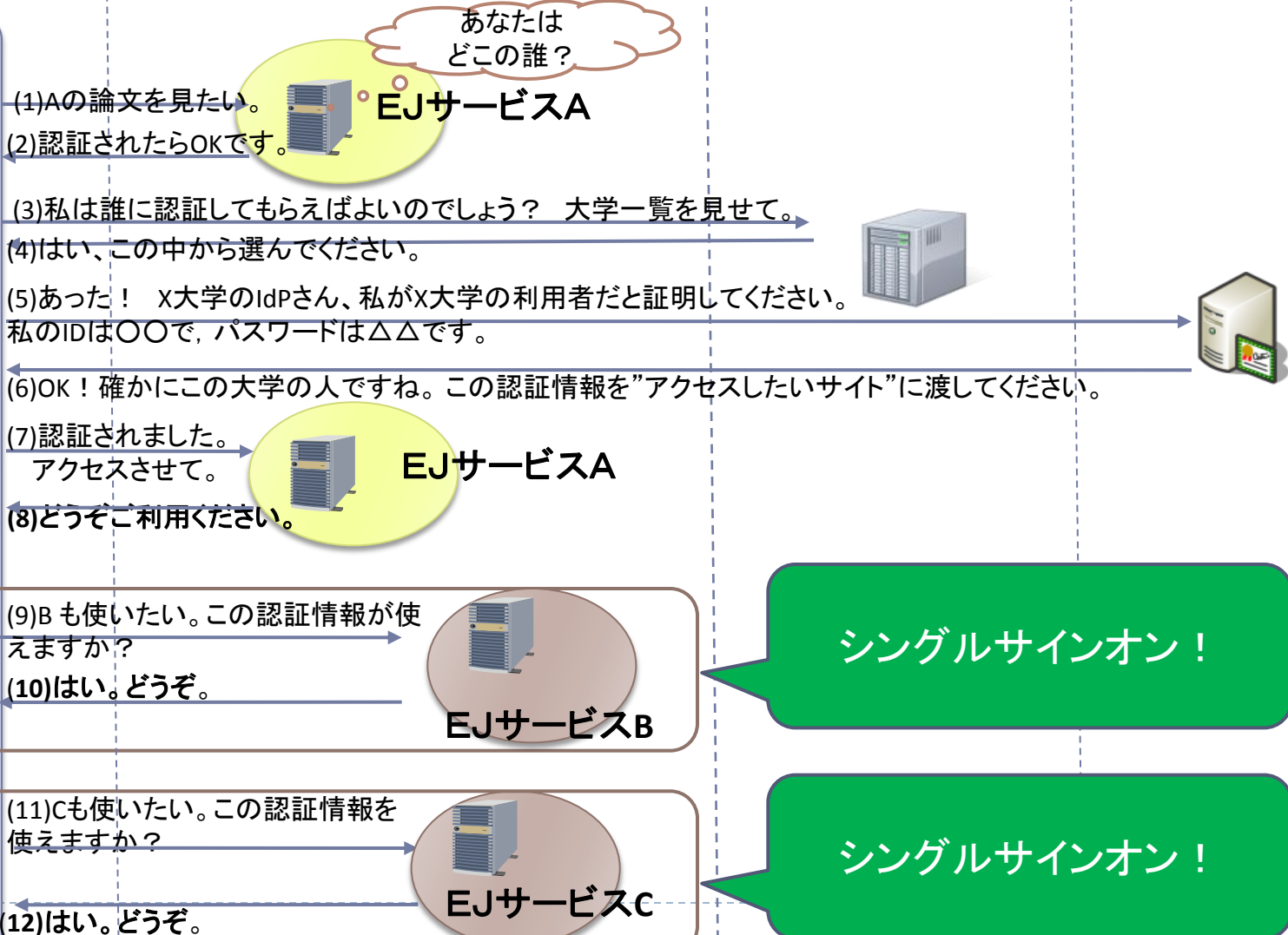
# シングルサインオンの流れ

各大学の  
利用者

電子ジャーナル等

IdP一覧表示(DS)

所属する大学のIdP



利用者

# 現実のEリソースを当てはめると

各大学の  
利用者

電子ジャーナル等

IdP一覧表示(DS)

所属する大学のIdP

CiNiiの有料論文が見たい

認証されたら見られます。



私のIDは〇〇で、パスワードは△△です。

OK！確かにこの大学の人ですね。

認証されました。

どうぞご利用ください。



Science Direct の論文も見たくなった。

認証済ですね。どうぞ。



RefWorksの文献リストを更新したくなった。

認証済ですね。どうぞ。



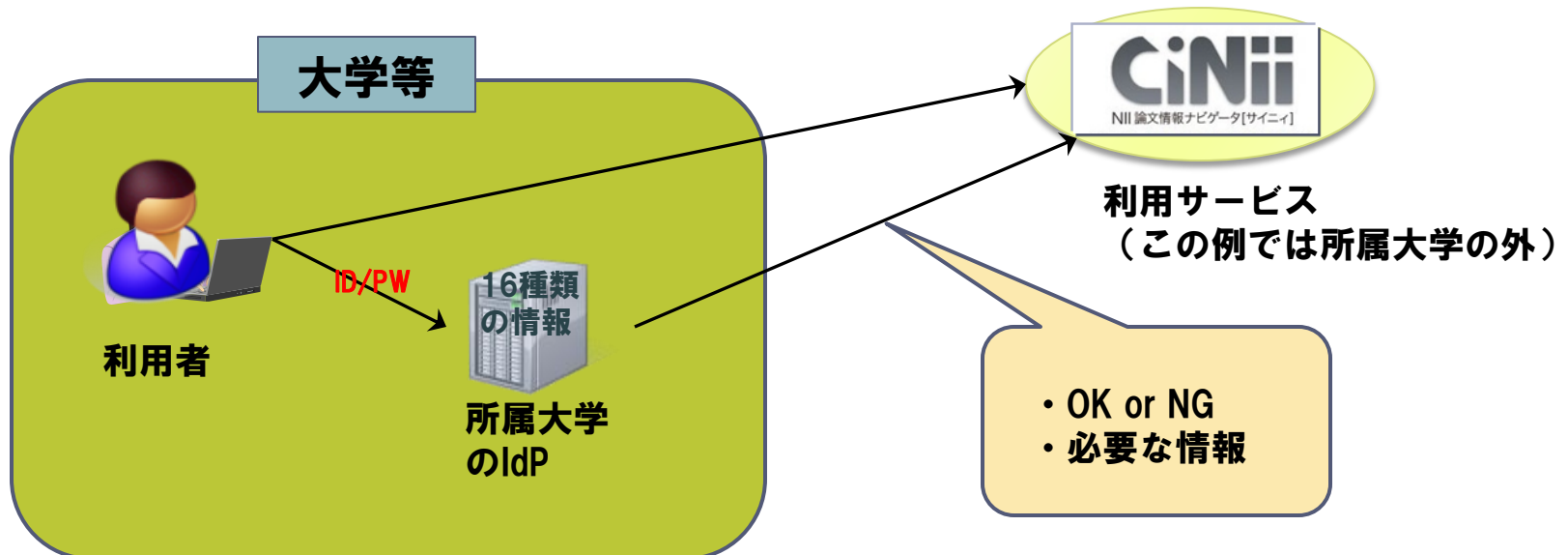
1度の認証で、  
2度、3度・・・おいしい。

利用者

# Shibboleth認証の特徴

- ・ サービスする側はID/パスワードを保有・管理していない  
(マイページの情報等を保管することはある ex. RefWorks)
- ・ サービスする側は所属大学の情報を全面的に信用
- ・ 認証は所属大学で実施
- ・ 認証の結果と必要最小限の情報のみをサービス側に通知

認証を行うのは所属大学のIdPで、サービス側ではない





# ShibbolethによるEリソース利用までのステップ

## 準備

- Eリソースの利用契約(当たり前ですが大前提)
- IdPの立上げ
- 運用フェデレーションへの参加

## 申請

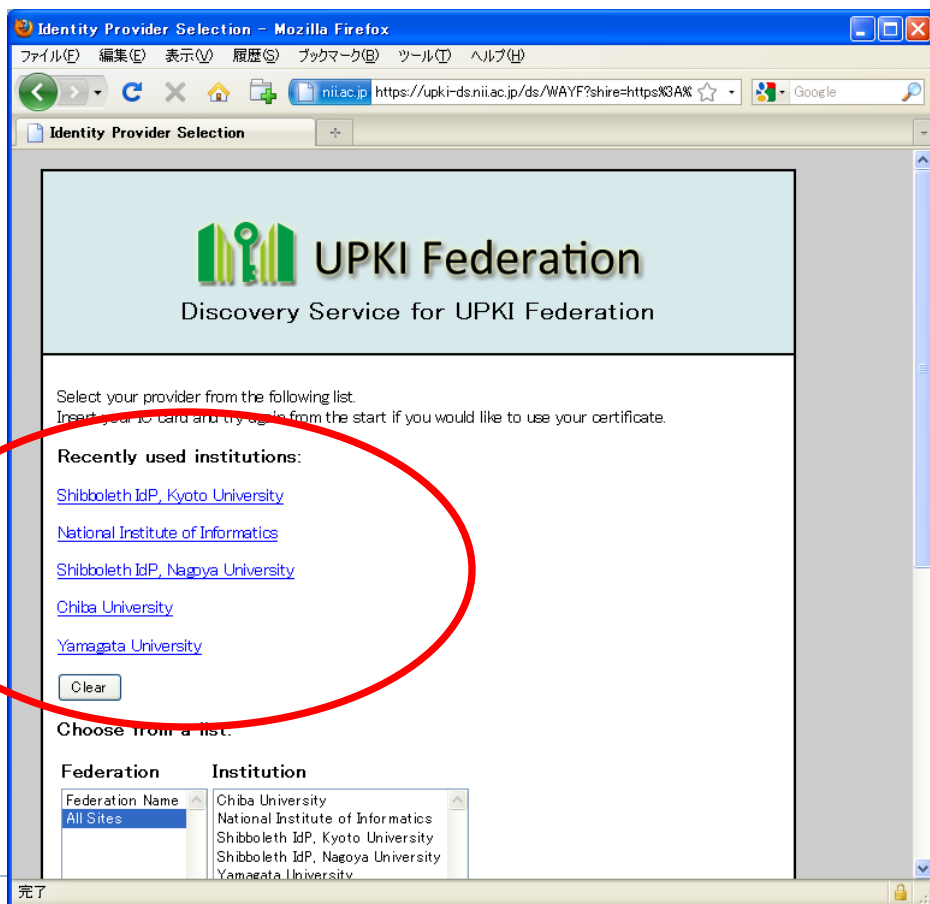
- Shibbolethによる利用をベンダに申請
- 申請内容, 方式は各社ほぼ共通

## 利用

- 学内周知
- 利用開始

# フェデレーションに参加の確認

- ▶ フェデレーションに参加すると一覧に名前が出る
- ▶ ここに名前があれば，出版社と交渉開始



※ 平成21年11月27日現在

## 接続申請の具体例（５社）

---

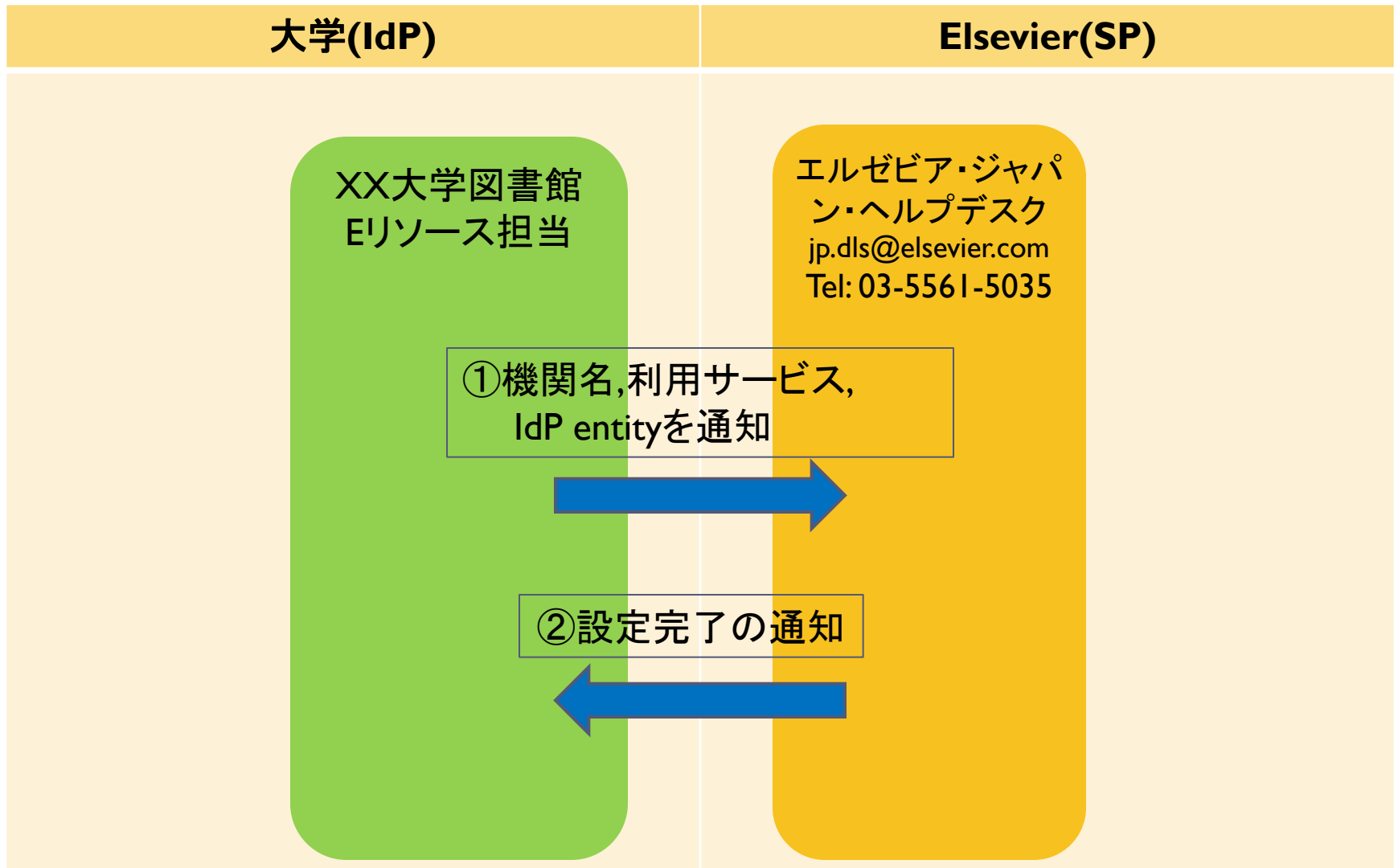
- ▶ Elsevier (ScienceDirect, Scopus)
- ▶ Ovid (OvidSP)
- ▶ Springer (SpringerLink)
- ▶ Thomson Reuters(Web of Knowledge, EndNoteWeb)

※アルファベット順

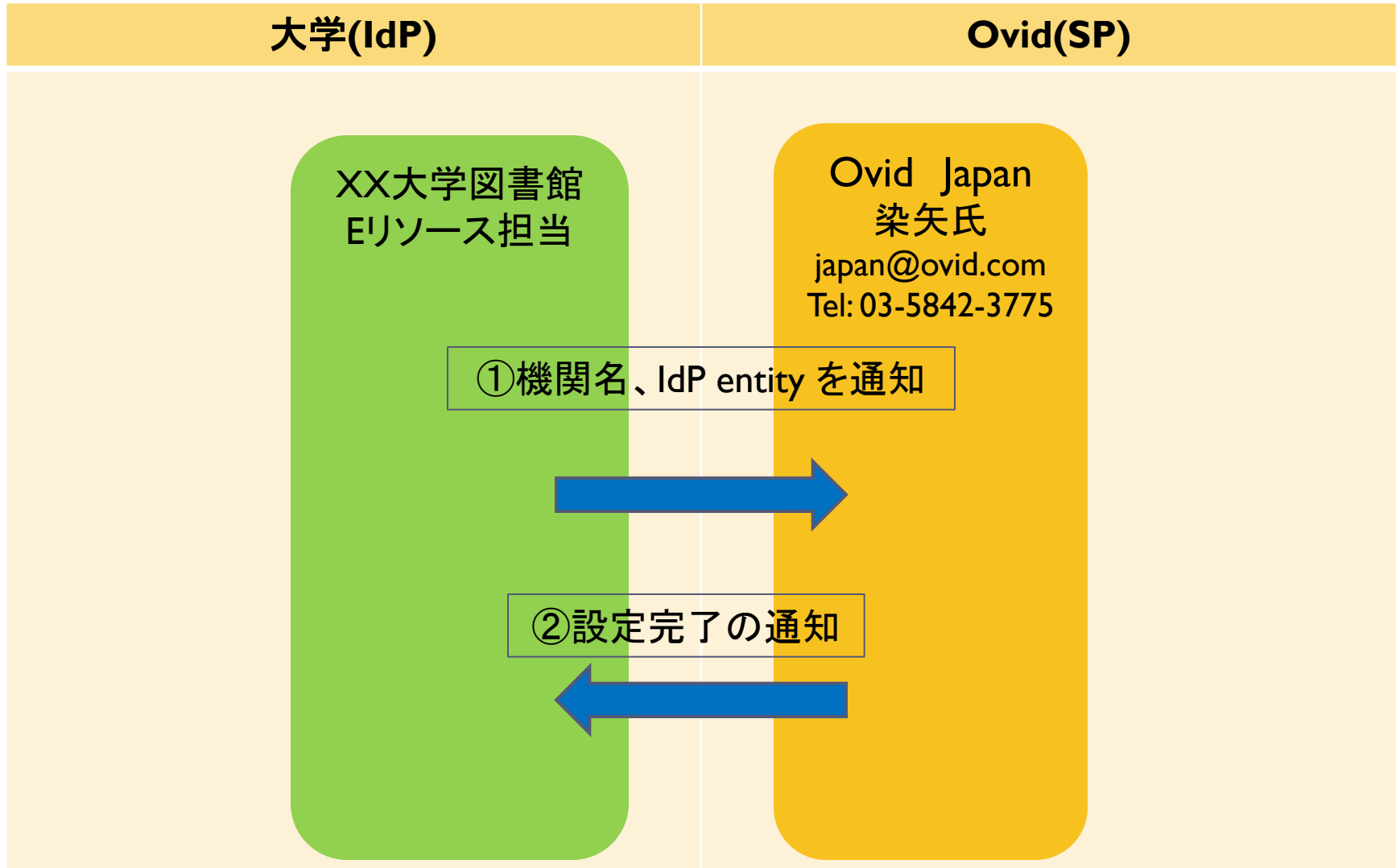
- ▶ NII(CiNii)



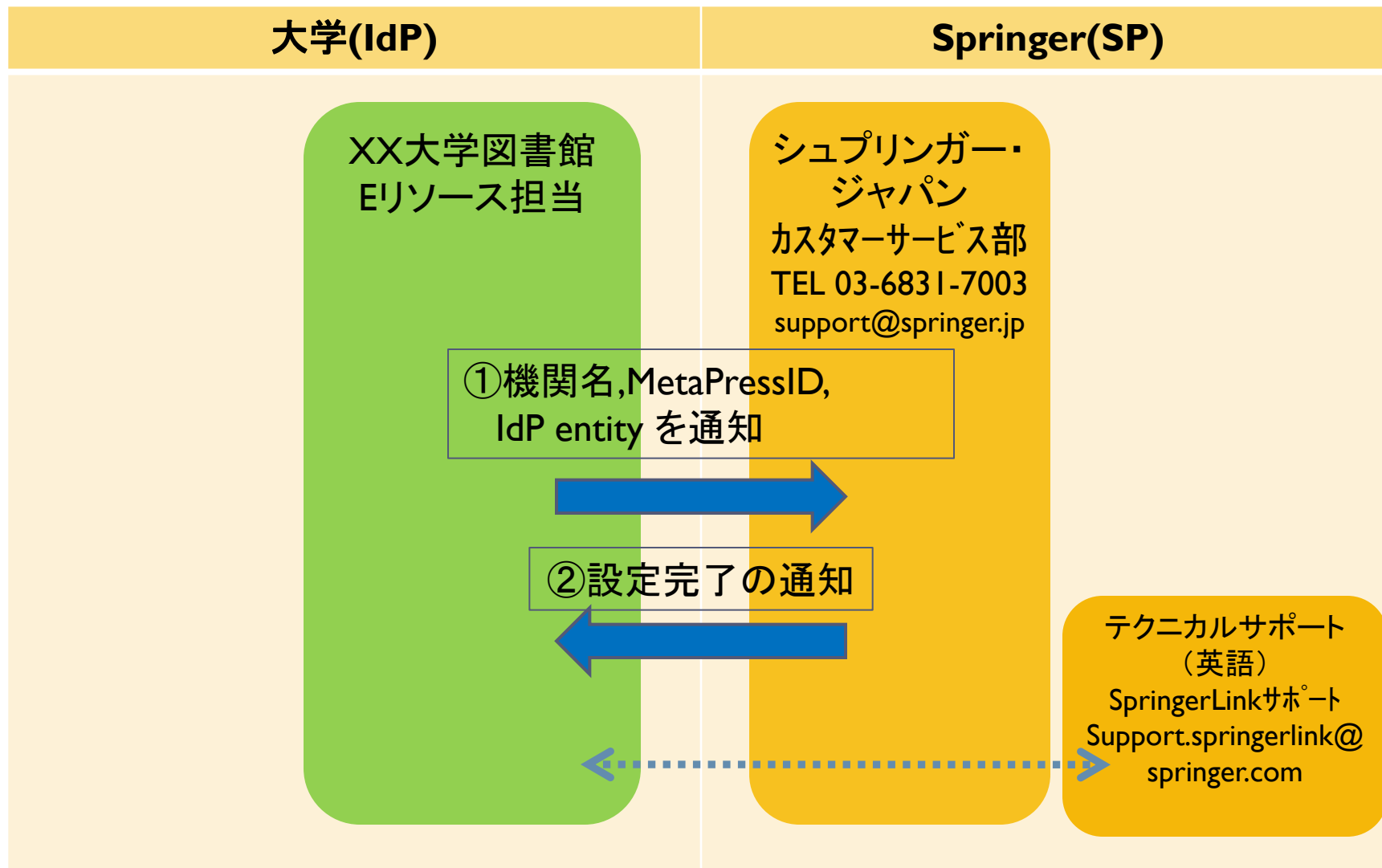
# Elsevier(ScienceDirect,Scopus)の場合



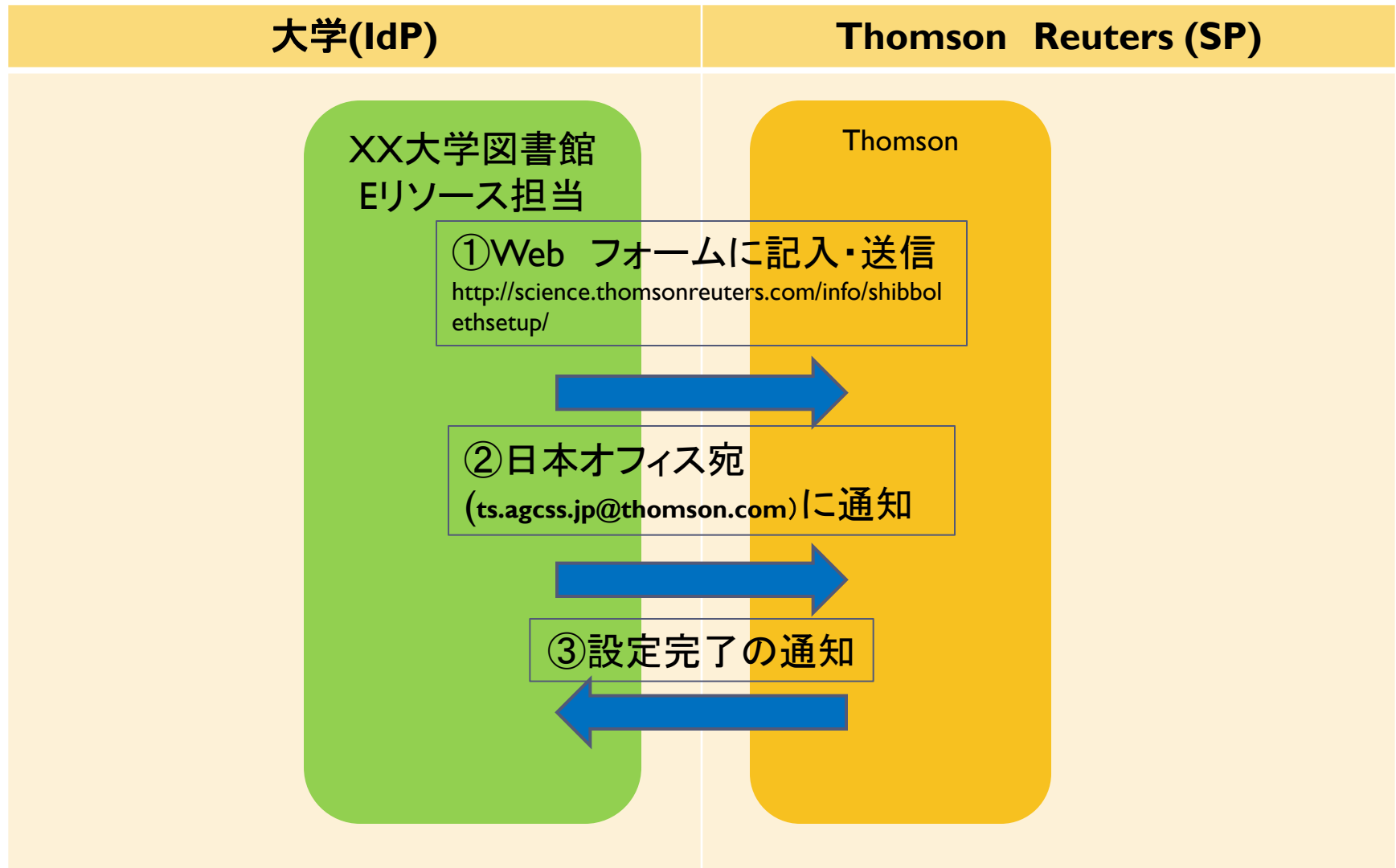
# Ovid(OvidSP)の場合



# Springer(SpringLink)の場合



# Thomson Reuters (Web of Knowledge, EndNoteWeb) の場合



# NII(CiNii)の場合

大学(IdP)

NII(SP)

XX大学図書館  
Eリソース担当

CiNii 窓口担当  
user-request  
@nii.ac.jp  
Tel: 03-4212-2300

①機関名を通知



②設定完了の通知





# テストフェデレーション参加中or参加検討中のベンダ

(海外)

- Refworks
- EBSCO
- CUP

(国内)

- 医中誌Web
- Japan Knowledge

etc.....



# 図書館、IdP管理者向けの情報

---

- ▶ <https://upki-portal.nii.ac.jp/docs/fed/technical/connect/sp>
  - ・各SPへの接続マニュアルを掲載。
  - ・フェデレーション参加SPの更新情報をMLで随時告知。
  - ・ここを見れば、とりあえず全SPへの接続方法がわかる、というページにする。



## 学術認証フェデレーション

学術認証フェデレーションに関するお知らせは [NEWS](#)、公開資料は [公開資料](#) をご覧ください。

### ■ Shibbolethによる学術認証フェデレーション(UPKI-Fed)の構築

全国の大学等とNIIが連携して、「学術認証フェデレーション(愛称: UPKI-Fed)」の構築・運用を平成21年度から本格的に開始しました。

### 学術認証フェデレーションとは

学術認証フェデレーションとは、学術e-リソースを利用する大学、学術e-リソースを提供する機関・出版社等から構成された連合体のことです。各機関はフェデレーションが定めた規程(ポリシー)を信頼しあうことで、相互に認証連携を実現することが可能となります。

認証連携を実現することができれば、学内でのシングルサインオン(一つのID・パスワードであらゆるシステムが利用可能であること)を実現することが可能になるとともに、他大学や商用のサービスにおいても、1つのパスワードを利用し、かつID・パスワードの再入力を行わずに利用できる環境を実現することができます。例えば、他大学の無線LANをいつも大学で使用しているIDとパスワードで利用することができ、かつ自大学が契約している電子ジャーナルヘシームレスにアクセスすることも可能となります。学術認証フェデレーションを利用することの詳細な利点については、こちら([UPKI-Fedの利点](#))をご覧ください。



<https://upki-portal.nii.ac.jp/docs/fed/about>